

保育所等におけるフッ化物洗口 導入のための取り組み

○松浦亜理¹⁾、松尾祐子²⁾、工藤裕子³⁾、瀧口俊一³⁾

1) 中央保健所、2) 健康増進課、3) 元中央保健所

I. はじめに

宮崎県歯科保健推進計画より

乳幼児期・学齢期の指標

- ◆ むし歯数を減らす
- ◆ むし歯のない者の割合を増やす
- ◆ フッ化物洗口に取り組む保育所等・小学校・中学校の割合を増やす

H28年度～R4年度まで
概ね横ばい

関係機関が取り組むこと

【市町村】地域の関係機関と連携し、保育所等におけるフッ化物洗口に取り組む

【歯科医師会・歯科衛生士会等】フッ化物洗口等の取組を支援する

【県】フッ化物洗口等に取り組む市町村等を支援する

I. はじめに

管内(2町)のフッ化物洗口導入状況

※R5年3月末現在

	A町	B町
小中学校	全校(7校)導入	全校(2校)導入
保育所等	2/10園導入	全園(4園)導入



R5年度～

保育所等の職員へ『子どものう蝕予防に関する研修会(年1回)』開催



2年間で2園増

※4/10園導入(R7.3.31現在)

I. はじめに

管内(2町)の一人平均むし歯数・むし歯有病者率

	A町	B町	県
3歳児むし歯数	0.59	0.26	0.43
3歳児有病者率	17.9	9.3	11.4

※R5年度

	A町	B町	県
12歳児むし歯数	0.91	0.40	0.72
12歳児有病者率	38.0	29.5	32.2

※R6年度



全て県平均よりも高い値となっている… 対策が急務！

Ⅱ. 対象と方法

■ A町の保育所等への直接支援

- ◆ A町との情報共有
- ◆ 『子どものう蝕予防に関する研修会』の開催
- ◆ フッ化物洗口未導入保育所等への働きかけ
- ◆ 保育所等による『職員・保護者向け説明会』の企画・実施支援
- ◆ 園歯科医への協力依頼
- ◆ 『職員・保護者向け説明会』後の相談支援

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

7月

第1回『子どものう蝕予防に関する研修会』開催



A町の園歯科医による講演

- ・むし歯予防の重要性
- ・フッ化物洗口の有効性、安全性

+

グループワーク(意見交換)

事前の電話勧奨により
全ての園が参加！

アンケート結果

- ◆ 参加者全員が『今後に活かせる学び・気づき』が『大いにあった』『あった』と回答
- ◆ 『歯磨きだけで十分、フッ化物洗口は大変危険と感じていたが、子どものために取り入れてみたいと思う』
- ◆ 『A町のむし歯率が高いとのことで予防の必要性を感じた』

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

8月

第2回『子どものう蝕予防に関する研修会』開催



A町の導入園にて

実施場面を見学

+

意見交換

事前の電話勧奨により
全ての園が参加！

アンケート結果

- ◆ 参加者全員が『今後に活かせる学び・気づき』が『大いにあった』『あった』と回答
- ◆ 『実際見てみて、そこまで負担にならないかなと思った』
- ◆ 『思っていたよりも、子ども達も生活の一部のようにスムーズに行っていた』
- ◆ 『健康にも害がなく、子ども達の健康に役立つと思った』



講話に加え、実際の場面見学や体験が『不安の軽減』に有効

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

第1～2回『子どものう蝕予防に関する研修会』アンケート結果より

	第1回	第2回
今後フッ化物洗口を導入したいか	『したい』6/10名 『分からない』4/10名	『したい』7/11名 『分からない』4/11名
『分からない』の理由	『職員の負担を考えると悩む』 『 <u>園の方針があるので</u> <u>何とも言えない</u> 』	『 <u>園で話してからの検討</u> 』



『**園の方針**』が重要な要因

管理者(園長等)へ研修会参加を促すことが必要

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

9～1月

フッ化物洗口未導入保育所等への働きかけ



未導入保育所等の園長へ
月1回、状況確認

- ・不安の傾聴
- ・協力できることや負担軽減策の提示



保育所等の反応

- ◆ はじめは『検討中』等と話す園が多かったが、話し合いうちに『前向きに検討する』等の返答に変化
- ◆ 最終的に、未導入4/6園が『導入したい』との意向を示す

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

10～3月 保育所等による『職員・保護者向け説明会』の企画・実施支援

支援内容

- ◆ 導入までの流れを説明
- ◆ 園歯科医への講話依頼
- ◆ 園と歯科医との日程調整
- ◆ 会資料の準備
- ◆ 当日の講話・導入園の実施場面動画を放映 等

子ども達自身で
大半の作業を行っている様に
園職員や保護者から
『すごい』等の反応が挙がる



園職員や保護者から、後ろ向きな意見はなく
導入前提での、前向きな意見・質問が挙がった

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

11～1月 園歯科医への協力依頼

うちが頼むんですか？
なんて相談すればいいんですか？



まだ電話できていません・・・

支援内容

- ◆ 管内全ての園歯科医を訪問し、事業説明・協力依頼
- ◆ 宮崎市郡歯科医師会の協力を得て、管内園歯科医・町・保健所で意見交換会を開催し更なる協力依頼



最終的に、管内全ての園歯科医より前向きな反応が得られた
保育所等による『職員・保護者向け説明会』にて、各園歯科医による講話が行われた



**歯科医師会への協力依頼や、医療機関との連携を図れる保健所が
保育所と関係者との橋渡しを行うことが必要**

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

12～3月 『職員・保護者向け説明会』後の相談支援

導入までに何をしたら良い？

保護者に対してすることは？



物品はどこで購入したら良いですか？

補助金の申請はどうすれば？

支援内容

- ◆ 相談への助言・必要な関係機関への繋ぎ
- ◆ 確実な導入に至るまで確認



R8年2月～1園導入

R8年4月～3園が順次導入決定



研修会で一時的な意識変容には繋がるが、決定打にはなりづらい
⇒ 継続して園との対話を重ね、導入のハードルを下げる支援が必要

Ⅲ～Ⅳ. 結果と考察

A町との情報共有



【A町より】

『日頃から様々な事業で園との関係性がある』

『園がどれだけ多忙なのかも分かるため、立場上どこまで推進するか悩ましい』



- ◆ A町の思いを尊重
- ◆ 研修会への同席や『フッ化物洗口事業費補助金支給』の周知を依頼



町の実情を把握し、役割分担して支援すること

⇒バックアップ体制としての保健所の役割

V. おわりに

フッ化物洗口

導入・継続

実施回数

導入年齢

保護者の意識

むし歯予防

むし歯治療

口腔機能全体

口腔機能発達不全症

複数の課題を複合的にみて

歯科保健対策を進めていく必要がある